

2012.1.18



「庄内坂」の石標の除幕を行うやまがた育英会の関係者ら。右から3人目が揮毫(きごう)した酒井忠久致道博物館長 =東京都北区

東京 やまがた育英会学生寮への200万円

志高める「庄内坂」

前身「庄内館」から命名

石標作り除幕

東京都北区のやまがた育英会(加藤五郎代表理事)の学生寮に通じる坂が、「庄内坂」と名付けられた。前身の庄内館を寮生や地域の人たちの記憶にとどめてもらおうと、地元の町内会の了解を得て命名。現地では17日、「石標の除幕式」が行われた。

庄内出身者の寮だった庄内館は1896(明治29)年に発足し、1926年に北区内に建設された。戦時中は寮に医学部生が残り、負傷者の救援に当たるなど地域とともに歴史を刻んだ。現在の寮「駒込学生会館」は、この跡地に新築され、2008年に開所。旧庄内館と旧県育英会の両法人が合併したやまがた育英会の運営となり、「庄内」の名は消えた。惜しむ声が多く寄せられ、坂の名前として「しよない」を復活させ

ることにした。「庄内坂」はJRの線路沿いの約200メートル。上った先に会館がある。石標は、庄内藩酒井家18代当主で致道博物館長の酒井忠久さんの揮毫(きごう)を基に文字を彫り、黒御影石で製作。高さ60センチで、会館の敷地内に設置した。命名を発案した寮監の和田豊さんは「寮生には坂を強く意識し、『坂の上の雲』を自指す志を持つ

ってもらいたい」と思いを語る。除幕式には、酒井館長、加藤代表理事に加え、地元の中里町自治会の町田初枝副会長、寮生代表の石黒正彬さん(22)＝酒田市出身＝らが出席した。酒井館長は「45年ほど前に父と庄内館を訪れたときを思い出し、筆をとった。喜んでいただき良かった」と感慨深そう。町田さんは戦時中に上市市に疎開した経験を持つ。「『しよない』の響きは趣を感じ、お世話になった山形の人たちの顔が浮かぶ。命名は本当にうれしい」と話した。